



〜経済波及効果は836億円〜

平成17年3月に観光交流立市宣言をした蒲郡市。観光のまちとして、観光客が蒲郡に訪れることにより、ホテルや旅館、観光施設だけでなく、関連する産業などさまざまな分野で恩恵がもたらされ地域経済に影響を与えています。

では、いったいどれくらい地域が恩恵を受けているのでしょうか。そんな「めやす」として数字で表されるのが観光による経済波及効果です。

経済波及効果は経済を分析するときに使われます。池に石を投げ込んだとき起こる波紋のように、1つの産業が生み出す生産活動は、その産業だけでなく、それに関連する他の産業にも新

たな需要を生み出し、さらに、生産を誘発していきます。

例えば、ひとりの観光客が旅館に泊まるとすると、ここで発生するものは宿泊代だけではありません。旅館で出される食事の原材料となる魚介類の漁業や農産物を扱う農業へも波及します。また、石鹸やシャンプー、従業員ユニフォームなどを作る製造業にも影響することになります。

皆さんのお仕事も観光客相手のおみやげ品を製造していたり、観光客へのサービスに関連して

いることもあるのではないのでしょうか。そういったものを全て含めたものが観光による経済波及効果なのです。

今回、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)が算出した蒲郡市の2005年の経済波及効果(生産誘発額)は836億円でした。昨年1年間で蒲郡市を訪れた観光客の763万人の方たち(うち



観光交流立市  
がまごおり

宿泊客は101万人)が使った交通費、飲食代、買物代、宿泊費などの費用が、地域の関連する産業にどう影響したかを算出した額です。

今回算出した836億円は、愛知県の産業連関表からデータを活用しているため厳密には蒲郡市だけの効果とはいえませんが、この多くが市内にもたらされて

いるのは間違いありません。そして、蒲郡市の製造品出荷額が千986億円(平成16年工業統計)で

すので、その数字と比べても836億円というのがいかに大きな数字であるか分かります。ちなみに、今年、中日ドラゴンズが日本一になった場合の経済効果は約220億円と算出されており、これと比較すると蒲郡の観光による経済波及効果は、ドラゴンズの優勝の約4回分ということになります。

また、蒲郡の観光の柱である温泉も地域経済に大きな効果を与えています。このほど発表された「平成17年度全国湯の街入湯客ベスト100」(北海道観光土産品協会調べ)によると、36位(入湯客数・約96万人)にランクされ、入湯税は約1億3千万円にもなります。この入湯税は市民の皆さんの生活に密着したクリーンセンターや消防施設の整備などに充てられています。

観光は、第1次、2次、3次産業を掛け合わせた第6次産業ともいわれます。それくらい、さまざまな産業への波及効果、あるいは入湯税などによる地域社会への貢献と、直接的ではありませんが市民の生活に大きな影響を与えています。

現在市内には、観光スポットとして竹島をはじめ多くの施設があります。今後ここに訪れる観光客の皆さんに「また、来たい」「泊まりたい」と思っていただけけるようなまちづくりをめざしましょう。

